

## 令和3年度事業計画(素案)及び予算(素案)への意見一覧

	令和3年度事業計画(素案)への意見	令和3年度予算(素案)への意見	事務局からの回答
1	<p>「【新】地産地消レシピの紹介」について、地元高校生によるレシピコンペを企画してはどうか。学校や家庭で話題になり、しゅうなんブランド認定品の認知度も高まるのでは。</p>		<p>「【新】地産地消レシピの紹介」について、健康づくり推進課と連携し、食生活改善推進員にレシピを考案していただく話を進めているため、今年度はこの形で進める。提案のレシピコンペを含め、認知度の向上に係る取り組みを協議会の中で検討したいと考えている。 (参考)現在あんしん子育て室の事業として、市内の小中学生を対象にレシピを応募する「野菜メニューコンクール」を実施している。</p>
2	<p>「推進店等と連携したトマトメニューフェア」について、 ・飲食店による料理提案のみのキャンペーンではなく、量販店ともコラボし、素材としての周南トマトもPRしたほうが、広く市民に認知されるのではないかと。 ・「なぜトマトなのか」という物語性も深めるべき。</p>		<p>「推進店等と連携したトマトメニューフェア」について、昨年度実施時の参加者から、市内産のトマトを量販店でも購入したいという意見を多くいただいた。今年度は量販店と連携できるよう、事業内容を検討し、協議会委員である量販店と企画、調整を行う。 また、事業者や生産者、消費者にトマトの利用促進を図る理由が明確に伝わるよう、PRの方法を含め、認知度の向上へ向けて協議会中で検討したいと考えている。</p>
3	<p>・「【新】しゅうなんブランドの見直し」について ぜひ見直しをお願いしたい。地産地消の産品を作り認定し、それを消費者が購入しなければ意味がない。認定品の中には、特定の曜日、場所でないとう購入できないものがあり、何のための認定なのか疑問に思うものがある。実態の調査もしていただき、購入しやすいものに見直しをしていただきたい。 ・「量販店での地域産品フェア」について イベント情報をもう少し早めにいただきたい。広報、報道等、広く周知を。 ・「推進店等と連携したトマトメニューフェア」について 開催店舗での周知が少ない店舗があった。 ・「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」について ラリーの期間を長くしては、2～3期に分けて賞品を入れ替えると、消費者として、継続的にラリーに参加しいろんなものを購入できる。</p>	<p>店舗に向くことが難しい中、オンライン店舗で紹介し、購入できるように予算化を。 イベントの際、試飲、試食を全てのしゅうなんブランド認定品で実施し、イベント参加者にまず味わってもらいたい。 数種類のしゅうなんブランド認定品のセットを手ごろな値段で設定する。お試し感覚の商品があると興味も湧くし、購入しやすい。</p>	<p>●令和3年度事業計画(素案)について 「量販店での地域産品フェア」について、令和2年度は事務局から委員への情報提供が遅れてしまった。今年度は、委員への情報提供を早めに行い、委員が情報の拡散、周知を行うことができるような仕組みとする。 「推進店等と連携したトマトメニューフェア」について、参加店舗にはポスターやメニューの掲示を依頼した。今年度は、参加者へのPRをより効果的に行うことができるよう、協議会と参加店舗が調整しながら販促物の作成、掲示を行う。 「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」について、市内各地域での主要イベント等の開催時期に合わせることで、イベントの実施による効果を相互に高めるため、原案の開催期間で進める予定である。 ●令和3年度予算(素案)について オンライン店舗については、現在ふるさと納税返礼品サイトへの登録を促している。また、「【新】しゅうなんブランドの見直し」に向けたアンケート調査の中で、通販に対する関心や出荷対応等についてヒアリングを行う予定であり、まずは実態を把握したいと考える。 試食、試飲について、現在のコロナ禍において実施することは難しいが、事態が収束した際は、以前のように実施していく予定である。</p>
4	<p>「しゅうなんブランド」の見直しより、「しゅうなんブランド」の言葉、ロゴマーク及び「周南市地産地消推進店」の普及推進が必要。</p>	<p>しゅうなんブランドシールの売上代が100,000円とあるが、漁協で50,000円程度購入し、配布している。全てのしゅうなんブランド認定品に確実に貼ることで、収入を増やしては、「しゅうなんブランド」の言葉とロゴマークの普及にもつながる。</p>	<p>「【新】しゅうなんブランドの見直し」に向けたアンケート調査の中で、現在シールを貼っていない事業者に理由を尋ねる。アンケート結果を参考に、「しゅうなんブランド」及びロゴマークの普及を課題として、協議会の中で検討したいと考えている。</p>
5	<p>「ジモットのお店にはしゅうなんブランド！」等、キーワードを定めてはどうか。それと共に、興味を持っていない人の目にも留まる情報の流し方が必要。 市広報については、表紙を飾っても良いくらいで、ケーブルテレビに枠を持ったり、新聞社による取材があっても良いのでは。各事業者への事前アンケートは無視できないが、将来的な見通しがある場合は、事務局からの強いプッシュも必要だと思う。</p>	<p>「ソレーネ周南・直売所等との連携事業」の増額を確認した。フェアの予算と読み取っている。 宇部フロンティア大学短期大学部とのコラボ商品を購入する目的で店舗まで足をのばしたが、タイミングが悪く手に入らなかった。宇部フロンティア大学短期大学部とのコラボ商品も、連携事業に含むことは可能か。</p>	<p>●令和3年度事業計画(素案)について 広報活動の方法について、今年度は市広報のみではなく、ケーブルテレビにてしゅうなんブランド認定品を使用したレシピを紹介する。また、新規認定品は事務局からマスコミ等へ情報提供を行い、複数のメディアから取材していただいている。より効果的なPR方法を、協議会の中で検討したいと考えている。 ●令和3年度予算(素案)について 「ソレーネ周南・直売所等との連携事業」について、「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」実施のための増額である。宇部フロンティア大学短期大学部との商品開発について、商品化した商品の販路先に直売所や道の駅ソレーネ周南を含むことができれば、当該事業に含むことは可能である。また、開発した商品の形態等にもよるが、スタンプラリーの賞品として取り扱うことも可能である。</p>
6	<p>「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」について、今後の利用促進につながるよう、各直売所がしっかり商品をPRできるようにしてほしい。</p>		<p>「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」について、参加直売所には、当該イベントの成果を活用していただきたいと考えている。</p>
7	<p>商品購入による応募等、お客様参加型の企画も入れてはどうか。お客様の認知度向上が必要だと思う。</p>		<p>お客様参加型の企画として、「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」を計画している。</p>

8	<p>「推進店等と連携したトマトメニューフェア」について、昨年度はどのような事業内容だったのか知りたい(良かった点、改善すべき点等)。  熊毛地区には、農産物直売所といえるところはあるだろうか。JAの建物を借りて週に数回販売しているグループがあることは聞いたことがあるが、「ゆめプラザ熊毛」を借りて事業者が出品する方法もあると思う。  熊毛地区にもスタンプラリーの場所を設けてほしい。</p>	<p>量販店での地域産品フェアで出費がかさんだとのことだが、接客用のビニールの仕切りは、各事業者で用意できるのでは。用意が難しいようであれば、事業者にも費用の一部を負担してもらって良いのでは。</p>	<p>●令和3年度事業計画(素案)について  議案第1号資料内「③周南トマトを使用した地域産品メニューフェア」及び「周南トマトメニューフェア参加者アンケート報告書」をご参照いただきたい。  熊毛地区でのスタンプラリーの場所については、検討したいと考えている。  ●令和3年度予算(素案)について  「量販店での地域産品フェア」等イベント実施時には、必要に応じて費用の一部を事業者にも負担していただくことも考えたい。</p>
9	<p>「【新】しゅうなんブランドの見直し」について、今まではあまり効果的ではない印象だったので、改めて見直すのは良いと思う。</p>		<p>既存の認定品をより効果的にPRし、また認定事業者にも効果的に活用していただけるよう、見直しを進めていく。</p>
10	<p>周南市産の花きについても、「しゅうなんブランド」として推進していただきたい。</p>		<p>花卉もブランド認定の対象であり、認定要綱に基づき進めていく。</p>
11	<p>・「【新】しゅうなんブランドの見直し」について  道の駅ソレーネ周南やイベント等で、どの商品がどれくらい売れていて、どの商品がナンバーワンなのか。  認定品が多すぎてブランドの重さが無いように思える。  道の駅ソレーネ周南の鮮魚は新鮮で安い。鮮魚を使った缶詰はできないか。  ・「【新】地産地消レシピの紹介」について  市広報のみでなく、学校給食の校内放送や、ケーブルテレビ等でPRしてみてもいい。  レシピについては野菜ソムリエの方に考えていただき、本協議会の女性委員が調理実習してPRしてはどうか。  ・「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」について  三田川の葉さい来んさいで粗品として小野茶をもらったことがある。高瀬茶があるのになぜ…?こんな時こそPRしてはどうか。  道の駅ソレーネに参加したことがあるが、それぞれの道の駅にそこにしかない商品があった。周南市にも、ここにしかない特産品があると良い。  ・その他  コロナ禍においても、トマトメニューフェアにはたくさんの方が参加した。アンケートも意外な結果が多く、参考になった。  トマトメニューフェアのメニューは1年中やっているのか。イベントだけでなく、周南市のメニューの一つになれば良いと思う。  食生活改善推進員で地産地消の研修会を行う予定だったが、コロナ禍のため中止した。ぜひみなさんと地産地消についてお話を伺いたい。  地産地消について、食生活改善推進員も認識不足だと思う。しっかりPRしていきたい。</p>	<p>できるだけ多くの人にPRできる道の駅ソレーネ周南や、直売所のイベントに使ったら良いと思う。</p>	<p>●令和3年度事業計画(素案)について  「【新】しゅうなんブランドの見直し」について、各認定品の販売状況等は、年に一度実施する現況調査にて事務局に報告していただいている。また、各イベント実施後にアンケートを行い、そのイベントでの売上額等を回答していただいている。  「【新】地産地消レシピの紹介」について、市広報への掲載と合わせて、ケーブルテレビでレシピ動画を放送する。レシピは、健康づくり推進課と連携し、食生活改善推進員の方に考案していただく予定である。  「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」について、スタンプラリーの賞品はしゅうなんブランド認定品をはじめとする市内産の特産品で統一する。直売所のPRのみでなく、しゅうなんブランド認定品等のPRにもつなげる。  令和2年度に実施したトマトメニューフェアは、令和3年2月の1ヶ月間に限って実施、販売を行った。イベント終了後も継続して販売するかどうかは、各参加店舗に任せている。  食生活改善推進員の皆さまは、本市の食育等に関して活躍されている。所管課の健康づくり推進課と連携を図りながら、本協議会の事業にも協力していただけるよう、引き続き調整を進める。</p>
12	<p>「市外での売込み強化」について、コロナ禍の中、場所を変更すべきだと思う。例えば全国誌(朝日、読売等)で広告を出して、専用ウェブサイトで送料無料の商品販売を行う等。或いは、地域限定(例えば東北地方、中部地方等)でテレビや新聞等で宣伝、販売すること。</p>	<p>「【新】道の駅ソレーネ周南と直売所との連携によるお買い物ラリー」について、移動手段の無い人が多く、現時点でコロナの収束が不透明な状況の下、地産地消普及・啓発活動推進の有効手段は、市内量販店と連携し、日常でもっと行きやすい所で、地場産直物コーナーを設置、拡大することだと思う。お買い物ラリーに参加する店舗をもっと増やした方が良いと思う。</p>	<p>●令和3年度事業計画(素案)について  「市外での売込み強化」について、コロナ禍の中において首都圏開催の商談会はオンラインでの開催が増えている。引き続き事業者にも情報を提供していくとともに、費用対効果も踏まえながら、効果的なPR方法について、協議会の中で検討したいと考えている。  ●令和3年度事業計画(素案)について  直売所での「お買い物ラリー」とは別に、令和2年度に続いて市内量販店での地域産品フェアを計画している。</p>
13	<p>・「【新】しゅうなんブランドの見直し」について  認定事業者へのアンケート調査を行った後、どのようにふるいにかけるのか。本心として、極力認定を取消さないようにするのか、それとも結果によっては取消しを行うのか。  ・「【新】地産地消レシピの紹介」について  具体的な料理(食材等)が想定されているのか。それとも今後協議会の中で決めていくのか。</p>		<p>「【新】しゅうなんブランドの見直し」について、基本的には、アンケートの回答内容に基づく事業者の意向に沿って対応したい。  「【新】地産地消レシピの紹介」について、レシピに使用するのはしゅうなんブランド認定品の中から、健康づくり推進課の協力のもと、食生活改善推進員の皆さまに考案していただくことを予定している。</p>
14	<p>「【新】しゅうなんブランドの見直し」について、アンケートを見ると認知度が低いので、効果的にPRできる形にできれば良いと思う。そもそも市民はそんなに関心がないように思う。市広報の商品紹介のページも、果たしてどのくらいの方が興味を持って見ているのか…。認定してその先どうなのか?ということはいつも疑問に思う。</p>		<p>しゅうなんブランドの認知度の向上は大きな課題であり、今後の方策について協議会の中で検討したいと考えている。</p>
15	<p>「【新】しゅうなんブランドの見直し」について、見直しは必要だと思う。鹿野高原豚やじねんじょうのようにブランドとして定着したと思われるものがある一方で、原料が市内産というだけで「周南市らしさ」や「独自性」が足りないと感じるものもある。数も多すぎ、「ブランド」認定」という特別感が失われているように感じる。</p>		<p>アンケート調査の結果や協議会の意見を踏まえながら、市において見直しを検討したいと考えている。</p>